

グループ名：(E-3) OPEN Univ.

タイトル：大学をつくろう！～私たちの考える理想の大学～

【課題認識】

E-3のメンバーは大学も担当業務も多種多様な中、まずは各業務上で抱えている問題点や改善したい点などを何に捉われることなく、とりあえず思うことを挙げた。

問題点として挙げられたのが、例えば、eラーニングに必要なICT環境が不足している現状や、電子ジャーナルの最新情報が催促しないと入手できない、また、教員がポータルサイトを活用できていない・・・など、一見全く共通項の見えないものばかりであった。

そこで、これらの背景にある問題は何なのかを探る作業を行い、挙げられた意見を全て、「〇〇が□□をするため」のフレーズに当てはめていく、転換作業を行った。

その結果、〇〇=対象者、□□=問題点が、一見全く共通項の見えない意見だったものが、共通しているということがわかり、さらにそれらの問題点を集約すると、二つの共通項に分けることができた。

以下、その二つの事項を我がOPEN Univ.の掲げる理念と位置付けた。

●教育・研究環境の向上 ●大学の情報をアピール

上記を実行する手段・方法を検討していく中で、私たち8人が理想とする大学（大学名：OPEN Univ.）を創立（創造）しようという結論に至った。

【討議内容】

大学と関わりの深い「学生」「保護者」「受験生」「地域・企業」「OB・OG」というステークホルダーに着目し、ブレインストーミングを行った。そこで挙げられた課題を解決するために、それらとの関わりを再認識しながら、理想の大学創造に向けて検討を重ねた。

私たちが考える理想の大学を、「建学の精神に基づき、社会が求める人材を育成・輩出する」「社会が求めている人材像を明確にする」とし、大学設立のため、建学の精神を打ち立てた。以下がOPEN Univ.の建学の精神である。

建学の精神

教育・研究成果の社会への還元
大学を取り巻く環境との信頼関係構築

建学の精神を掲げたうえで、より充実した教育研究環境を提供するにはどうすればよいのか議論し、まずはステークホルダーの中から「学生」に重点を置き、そこから派生する各ステークホルダーへなすべきことを議論した結果、以下の内容が挙げられた。

「学生」 大学職員の使命：より充実した教育研究環境を提供する。

- ・大学に「入る」ことが目的ではなく、社会に貢献するための能力を養う必要がある。
- ・学生という受益者に提供すべきサービスはどうあるべきか。
- ・卒業・就職までに何を得てもらいたいのか。

「保護者」 大学職員の使命：4年後の明確なビジョンを提供する。

- ・希望者向け三者懇談会（保護者・学生・職員）

- ・保護者向け就職ガイダンス
- ・成績表の開示
- ・学生が答えた「授業評価・学生生活満足度アンケート」結果のフィードバック

「**地域・企業・OB/OG**」 大学職員の使命：学生が講義で身に付けた力を発揮できる場を提供する。

- ・地域を巻きこんでの学祭・ボランティア活動
- ・インターンシップ（産学連携による推進）
- ・希望就職先の先輩OB・OGによる懇談会・意見交換会

「**受験生**」 大学職員の使命：「入学後の自分」をイメージしてもらう。

- ・学生主導のオープンキャンパスの開催
- ・公開講座
- ・大学の情報公開（入試・就職状況、学生生活、資格関連情報など）

【提案内容】

討論の結果、以下のように解決に導けるという結果に至った。

「**学生**」には「**社会人基礎力**」と「**学習到達目標**」をシラバスに明確化する。

⇒自分の身に付いた能力が明確になれば、それは自信にもつながる。

「**保護者**」には保護者・学生・大学 三者間のコミュニケーションの基盤構築。

「**地域・企業・OB/OG**」には就職後のミスマッチを解消、地域・企業に学生の培ってきた能力を知ってもらえる。

「**受験生**」には不本意入学を未然に妨げる。「**目的意識**」を持って大学生活を過ごせるようにする。

それぞれの評価方法（Check）として、2つの期間に分けた評価法を設定した。

短期間型 ・学生生活満足度アンケート

- ・授業評価アンケート

長期間型 ・卒業率

- ・就職率

また、大学のよりよい「質の向上」を目指すにあたり、教員と職員の情報共有（教職協働）は必須であると捉え、以下の例を提案した。

例1）教員による教員の授業見学期間の設置

⇒教員と職員間で解決策を見出し、授業改善を図る。

例2）寺子屋制度

⇒教員が担当制で個別に授業の質問を受けるなどのフォローをする。

以上のような大学を取り巻く環境とつながり、そのつながりを大切にし、絶えることなく循環させていける、そんな大学環境を創造できる大学をめざすこと、我々のグループでの結論とした。

以 上